

第 67 回中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会島根大会開催報告

大会テーマ 神話の郷に集う縁 ~ 新時代を生き抜く力を ~

7月 11 日（金）、島根県松江市の「くにびきメッセ」において第 67 回中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会島根大会が開催されました。大会には中国・四国地区より 1000 名を超える方々、香川県からは 35 校、77 名が参加しました。

開会行事では、開会宣言のあと、島根県立松江北高等学校の生徒による国家独唱がありました。主催者からの挨拶に続き、島根県副知事及び松江市副市长からの祝辞がありました。

午前中の記念講演では、メカニックデザイナー山根公利氏から、「IT から生まれる人の幸せとは何か？」と題した講演がありました。山根氏は島根県川本町の出身で、県立江津工業高等学校在学中からアニメ誌に投稿した絵が掲載され、卒業後は東京の専門学校に進学し、

新聞掲載学生として働きながらアニメーションの基礎を学び、卒業後は多くのアニメ作品のメカニックデザインを手がけてきました。特に「カウボーイビバップ」や「ガンダム S E E D」などが代表作で、これまでにないリアルな描写と創造的なデザインで、アニメのメカニックデザインに新風を巻き起こした第一人者です。2000 年からは東京から地元島根に戻り、そこでは、生まれ育った地域の文化や風土を探求、また、ご自身の趣味である愛車の整備を通じてメカニックの質感などを体感することによって、より一層リアルな描写につながったとのお話をありました。IT の伸展等により、今後ますます脚光を浴びる業種だと感じました。



午後の部では、まず地元島根県内の 3 校の高校生による活動発表がありました。島根県立浜田商業高等学校は島根の郷土芸能である「石見神楽」を披露しました。日本の神話で最も有名な「大蛇(おろち)」を上演し、大蛇と須佐之男命の迫力ある立ちまわりに観客の皆さんには圧倒されました。松江市立皆実が丘女子高等学校ダンス部 (M G D) による J-POP や K-POP などのダンスパフォーマンスがありました。今回は保護者世代のためにプリンセス・プリンセスや嵐の曲を題材にしたプログラムもあり心躍る瞬間でした。最後は、島根県立出雲農林高等学校の出農太鼓部による和太鼓の演奏がありました。出雲市の農業の発展に大きく貢献した大槻七兵衛の苦労や喜びを表現した演目で、田園風景や激しい嵐、そしてそこから復興していく様子を再現した迫力あるステージでした。3 つの高校の生徒のパフォーマンスに酔いした 1 時間でした。

大会のメインとなる研究協議では、各県代表の 3 校から、学校の取組や P T A 活動の特色について発表がありました。まず、岡山県金光学園中学・高等学校による「子とともに育つ～金光学園やつなみ保護者会の歩み～」の発表では、「ちちははも こどもとともに うまれたり そだたねばならぬ 子もちちははも（両親は子どもがいて初めて親となる。だから、親となった両親も子どもとともに育っていきましょう）」という金光鑑太郎師の言葉に心を打たれました。まさに、金光学園の P T A の在り方を表したものでした。77 年にわたる P T A の歴史について語られた後、現在の活動についての説明がありました。

全役員（地区委員＋学年委員）が 109 名、評議員が 48 名で活動し、評議員は指導・教養・庶務の 3 部のいずれかに所属し、文化祭では「友愛セール」（物品販売・手作り品作成販売・制服リユース・キッチンカー企画など）に取り組んでおり、機関誌も 1952 年創刊から 270 号にいたっています。78 年目を迎えて活動はますます盛んになり、「みずからよい保護者よい教師になることに努め、生徒の心身の健やかな成長と勉学の成就に役立つ」という会則の目的を達成するために活動を続けているという報告がありました。続いて、愛媛県立今治東中等教育学校からは、「生徒の夢を支える P T A の役割～教職員との連携による 6 年間の教育支援～」と題して発表がありました。1983 年に開校し 2003 年に中学校が併設され、6 年間で個性を伸ばすことを教育方針に掲げている学校です。P T A 役員は総務・人権教育・進路指導・生活指導の 4 つの専門委員会にわかれています。また、中四国地区の大学訪問と観光を兼ねた研修旅行や、運動会・文化祭での競技への参加やバザーの実施、防災避難訓練など多岐にわたる活動を行うとともに、教職員との懇談会や生徒との座談会、他の県立中等教育学校との連絡協議会など、つながりを大切にしているという印象を受けました。P T A と学校の一体感を感じることができた発表でした。最後に、地元の島根県立隠岐高等学校から「人情の島が創る隠岐高校～地域が育む高校魅力化～」の発表がありました。隠岐の島という特別な地理的環境を活かし、地域との連携が深い教育を行っている高校です。また、地元の産業とも連携した探究活動や体験学習が盛んです。隠岐ユネスコ世界ジオパークを活用した総合的な探究に力を入れており、大きな大会で発表する生徒もいるようです。P T A としては、夏祭りのパトロールや校則の見直しなどにかかる活動を行っており、子どもたちには地域と共に歩んでいく学校であることを認識して規律をもって自立してほしいとの願いをもって活動しています。隠岐の島の大きな問題の一つとして、人口減少があります。高校を卒業すると大半の若者が島外に出でていきます。島内にいる間に、地元の魅力等について大人たちが伝えていくとともに、高校の魅力を再認識、創出し、学校・P T A ・地域が一体となって、生徒がここで学んでみたいと思える学校づくりのために努力しているという発表でした。

閉会行事では、原完次大会実行委員長の挨拶の後、次期開催県である本県の紹介動画が上映され、グリーンのポロシャツで揃えた 12 名が登壇し、杉本勝利会長から島根県へのお礼の言葉と来年の香川大会の P R がなされ、最後は香川県の参加者 77 名が声を揃えて来年の香川大会への参加を呼びかけ、大盛況のうちに大会が終了しました。

今回の島根大会に際して、香川県高 P 連プランを企画したところ、県内の保護者・教員 66 名のご参加をいただきました。また、18 名の方には、来年の香川大会へ向けて視察を行っていただきました。猛暑の中、本当にありがとうございました。

来年の 7 月 10 日には中四国大会を本県で開催します。会場は高松市のレクザムホールです。これから多くの方にお手伝いをお願いするようになると思いますが、皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。